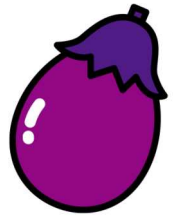


ナスビの学校



9月24日(火)、宮崎大学教育学部附属中学校で立
会演説会・生徒会総務選挙が実施されました。開票の
結果、新しい生徒会総務が決定しました。

声に耳を傾けて……

当日の朝に行われた全校
朝会で、担当の郡俊一郎先
生は「生徒会選挙で投票す
るということは、学校づく
りに参画することでもあり
ます」と熱く語りました。

郡先生が使った「参画」
という言葉には、「計画の
段階から加わり、ともにつ
くっていくこと」という意
味があります。この言葉の
意味を生徒会選挙に当ては
めてみると、次のようにな
るでしょう。「どのよう
な学校にしたいのかをみんな
で語り合い、計画の段階か
ら加わり、ともに力を合わ
せて新しい学校をつくって
いこう。」

立会演説会では、立候補
した生徒たちが、様々な視
点から考え抜かれた公約
(マニフェスト)を堂々と
発表しました。全校生徒が
耳を傾け、ともに目指した



い学校の姿を想像しあう、
良い時間になったようです。
そして、立会演説会終了
後、各学年の投票場所へ投
票が行われました。

今回の選挙に選挙管理委
員会として参加した成田鈴
菜さん(3年B級)は、「こ
れから学校をつくるうえで
中心となっていく人を決め
る選挙であり、運営にあた
ることの重みを感じた」
「学校をよりよくすること
はもちろん、一人一人の声
に耳を傾けて、笑顔の花が
咲くような学校をつくって
いってほしいし、それに協
力したい」と話していまし
た。

投票することは未来をつくること

今回の生徒会総務選挙と
実際の選挙。大きく違う点
があります。それは「投票
場所への行き方」です。生
徒会総務選挙の場合は生徒
会総務を選ぶこととあわせ
て「投票を体験する」とい
う目的があります。そのた
め、投票のしかたや注意点
を何度も説明するし、投票
場所へも並んで移動します。
しかし、実際の選挙で
「投票所まで並んでいきま
しょう」と声がかかること
はありません。それぞれが
投票に行く時間を見つけ、
投票所へ足を運び、自分の
一票を投じるのです。

みなさんは、18歳になる
と選挙権(選挙で投票する
ことができる権利)を得ま
す。みなさんは選挙権を得
たあと、自分で投票に行く
ことができるでしょうか。
「どうせ選挙に行っても
何も変わらない」「自分の
一票で何かが変わるわけじ
ゃない」……選挙に行かない
(棄権する)人たちはこう
言います。でも、本当にそ
うでしょうか。

最近では「シルバー民主
主義」という言葉が使われ
るようになりました。選挙
に立候補した人たちは、な
かなか選挙に来てくれない
若者たちよりも、たくさん
選挙に来てくれる高齢者の
みなさんのためになる政策
をどんどん主張します。
「高齢者のみなさんのため
になる政策」とは、言い換
えれば、「若者たちではな
く、高齢者のみなさんのた
めに、より多くの税金を使
う」ということです。
そして、このような政策
を主張する人たちが選挙で
当選し、政策を実行してい
くことで、高齢者のみなさ
んにとって住みやすい国や
町がつけられていくという
現象のことを「シルバー民
主主義」と呼ぶのです。

誤解のないように言えば、
シルバー民主主義は「高齢
者のみなさんばかりに税金
を使うのはよくない」と主
張しているわけではありま
せん。いろいろな世代に、
できるだけ公正かつ適正に
お金を使い、みんなが住み
やすい国や町をつくってい
こう。そのためには、高
齢者のみなさんはもちろん、
若者のみなさんもどしどし
選挙に行って、自分の一票
を投じていこうと呼びかけ

今回の生徒会総務選挙で
投票した経験が、18歳とな
り、選挙権を得たあとのみ
なさんの行動につながって
いくといいです。自分の希
望や想いを実現するために
選挙に行くという「みんな
の小さな行動」によって、
みんなが自分の生きたい道
を歩める社会づくりに参画
することができます。あな
たの一票が、あなたの未来
をつくるのです。

